



昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第780号
令和2年10月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州

社会福祉 HERO'S vol.06

高齢化する利用者を支えるため
チームワークでケアコンにチャレンジ

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

令和元年東日本台風災害から1年
“つなぐ” “創る” 復興期の地域福祉活動

No.

780

2020 11月号

令和元年東日本台風災害から1年 “つなぐ” “創る” 復興期の地域福祉活動

令和元年東日本台風災害は、県下各地で河川の氾濫や土砂災害などが発生し、大きな爪跡を残しました。しかし、8万人を超えるボランティアと400以上の市民活動・NPO団体に支えられた「ONE NAGANO」の取組は、被災した地域の住民のエンパワメントとなり、復興に向けた地域活動が展開されています。

令和元年東日本台風災害1周年追悼と復興のつどい(長野市長沼地区)
会場に駆けつけられない人のメッセージも付けて、風船(※環境配慮品)が大空に飛び立ちました。

住民が立ち上がり 1周年事業を開催 (長野市長沼地区)

「住民の、住民による、住民のためのイベントをやりたい」長野市長沼地区で令和2年6月から定期的に開催されている長沼支援会議で声が挙がりました。長沼地区は4つの区で構成されていますが、災害前より連携を深めたいという思いが込められ、区を超えた「オール長沼」実行委員会が立ち上がり、住民の手作りイベントの企画が始まりました。運営には地区の住民自治協議会の支えが加わり、さらに、当日は、長野市北部社会福祉法人連絡会(準備会)が、仮設住宅等の避難先から移動手段が無い方の送迎を担いました。会場では住民同士が再開を喜ぶ様子が広がり、千曲川の決壊後復旧された堤防の上に子どもから高齢者までたくさんの住民が集まり、それぞれの想いを乗せて風船を飛ばしました。

イベントを企画した実行委員の一人は「『離れていても戻ってこれる』『やっぱり戻ってきたい』『まだ、どうすればいいかわからない』そんなことを住民同士が自然に話し合える場を作っていきたい」と話しました。

イベントの開催を支え続けたのは、復興期の見守りや相談支援、そして被災を乗り越えた地域づくりを展開する「生活支援・地域ささえあいセンター」(以下、「ささえあいセンター」)。配置された相談員がこうした地域に想いを持った住民の声を拾い、避難生活を続ける住民に寄り添い、そして、様々な関係機関につなぐコーディネートが展開されました。



1周年イベントにて久しぶりの再会

まちの縁側ぬくぬく亭 (長野市豊野地区)

900戸以上の住宅被害のあった豊野地区。まちの中心の豊野支所の

隣にある「まちの縁側ぬくぬく亭」は、令和元年12月の開設以降休みなく住民が集う拠点です。「公費解体で全部壊しちゃったけど、この先どこに家を建てたらいいのか」不安を抱えながら顔を出した住民の声を地元の運営ボランティアが丁寧に聴きます。地区内のボランティア団体がソフトを組んで毎日2人以上が参加。ボランティアの方は「相談を受けることはできないが、とにかく話を聴いて、少しは楽になってもらえたら」と話します。

運営の中心を担う社会福祉法人賛育会は2m40cmの浸水被害があり、1年経過した現在もまだ復旧工事が続いています。「地域の復興なくして福祉事業所の復興はない」と職員が最大15人ぬくぬく亭に常駐して、地域での炊き出しや訪問、ボランティア活動を展開しながらぬくぬく亭の運営をしています。「毎日、緑色のビブスを着け、まちの中を歩き回りました」とリーダーの春原さんは振り返ります。こうした地道な活動により住民との強い信頼関係が築き上げられました。

賛育会は、徐々に施設が復旧して通常事業が再開され、常駐する職員の数は減ってきていますが、住民主体の運営に移行できるよう常駐スタッフが地

元のボランティアリーダーを支えています。春原さんは「地域の力を集結して息の長い活動として継続していきたい」と今後の展開を語りました。



漬物、りんご、手作りケーキにお茶、コーヒーで賑やかにお茶会

復興期のボランティア活動の実践（中野市）

中野市では、今夏、家屋の解体を余儀なくされた方たちの家財等の搬出のボランティア活動が実施されました。ささえあいセンターの相談員が対象世帯を訪問して丁寧にニーズを把握し、社会福祉協議会がボランティアを募集して連携。コロナ禍に加えて記録的な猛暑のため感染症予防対策と合わせて熱中症予防の二重の対策が講じられて

実施されました。住民の方は「家族のみではできなかった。ボランティアの姿勢に感動した」と話します。ささえあいセンターの相談員は、今回の取り組みを事前に区の役員に相談したこと「被災している、被災していないに関わらず、地域全体や防災への関心を高めることができた」と手ごたえを感じました。



学生ボランティアとベテランが力を合わせます

見守り・相談支援事業の継続と復興地域福祉活動の展開

飯山市ささえあいセンターでは、毎月定例で実施する運営会議に被災世帯が多かった地区の役員や民生委員の参

加を調整し、被災状況の共有や地域の見守りについての検討が行われました。長野市の建設型の応急仮設住宅で週1回実施する「えんがわ日」では、もともと同じ地区に住んでいた住民同士で草刈りを実施。このことがきっかけで継続した交流会へとつながりました。千曲川上流域の佐久穂町の山間部では、住民同士が集まり、おかずのお裾分けの延長で気になる被災者宅に食事を届ける活動が始まりました。災害から1年が経過した被災地において、復興支援の相談員やコーディネーターの配置により、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」による地域共生社会につながる復興期の地域福祉活動が展開されています。



えんがわ日に1周年イベントで掲げる手形アートを作成



進め！ 信州ふっころ プラン

長野県地域
福祉活動計画

Vo.④ 準備状況をご紹介します

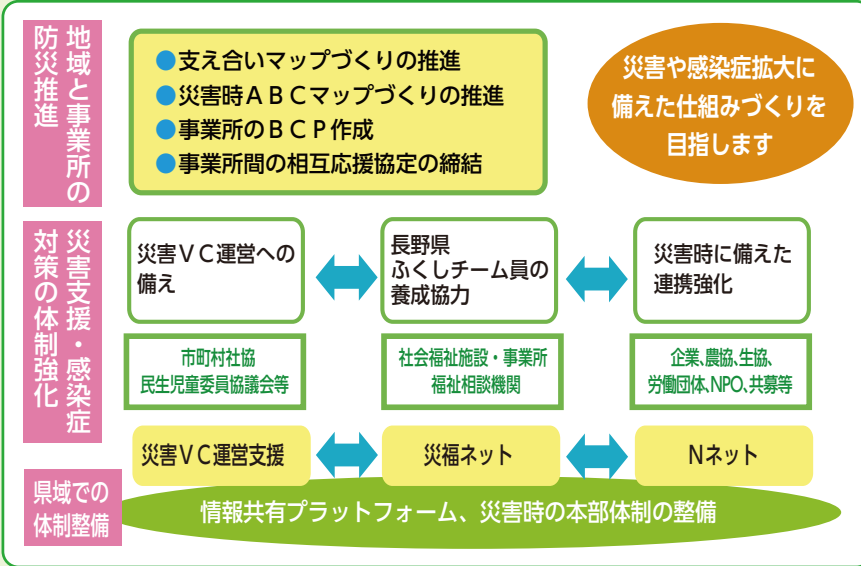
頻発する大規模災害や感染症による社会全体へのリスクに対して、各被災地に設置される災害ポラン

Ⅲ あんしん未来を創造する

⑦ みんなで取り組む、災害に備えたあんしんの仕組みづくり

●災害時に力を発揮した縦割りを越えた協働。この取組を継続性のある仕組みに

■ 取組イメージ



ティアセンターのほか、長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会（災福ネット）や長野県災害支援ネットワーク（Nネット）等、地域のネットワーク組織の体制を強化するとともに災害時要配慮者を守る地域防災や社会福祉施設の災害対応を充実させていく必要があります。

りんご通信

令和元年東日本台風災害 復興の取り組み



「災害福祉カンタンマップ」 実証実験参加法人を募集します！

昨年の東日本台風災害では、多様な外部支援者が被災地支援に従事しましたが、それぞれが把握した被災者情報を被災地行政に整理してお返しできなかったことが大きな反省点でした。

そこで、長野県社会福祉協議会では、今年度、インターネットを活用した情報共有ツール「キントーン」を提供している、サイボウズ株式会社の協力を得てデジタルマップを活用した被災者支援の情報管理ツールを開発しています。

令和3年1月から1年間をめどにこのツールの有効性を確認する実証実験を行うこととし、現在、参加法人を募集しています。

実証実験は県内の社会福祉法人や福祉・介護事業に取り組むNPO法人等、約20法人を予定していますので、関心のある方は、下記までお問合せ下さい。

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター
TEL. 026-226-1882
Eメール vcenter@nsyakyu.or.jp

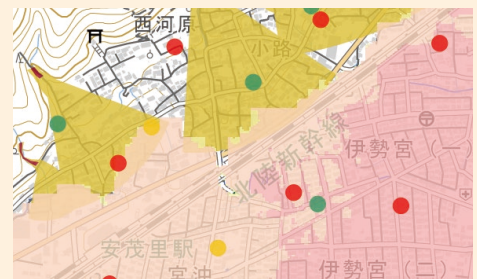
ホームぺージを
ご覧ください



実験の目的1

「個別避難計画づくり」を促進する。

福祉・介護事業所の在宅サービス利用者を避難困難度によりABC（赤黄緑）分けしてマップに見える化し、事業所として、優先度が高い方の個別避難計画づくりに取り組みます。



※サンプル画面

また、地域住民に災害時の支援をお願いする場合は、ハザードマップを印刷して地域に持参し、住民の取り組みを支援します。

実験の目的2

平常時の支援と災害時の支援情報を「カンタンマップ」でつなげる。

平時	災害復旧期	災害復興期
支え合いマップ作り、個別避難計画づくり支援	・避難所支援に従事するふくしチーム(DWA T)等の支援情報管理 ・災害ボランティアセンターの支援情報管理	ささえあいセンターの支援情報管理

災害福祉カンタンマップ

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和2年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 入院中の手術		65,000円	
	保険金 外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)
 損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK19-12918 2020.2.10作成)

令和2年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用			死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補基本	1~50名	35,000~61,460円
備A型	51~100名	68,270~97,000円
付見	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
補舞	基本補償(A型)	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円
償用	保険料	

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)
 損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJK19-14131 2020.2.7作成)

第10.5回 地域まめったい“プレ”サミット in豊殿を開催しました

3年ぶりの開催となる「第10.5回」

令和2年10月17日、上田市豊殿地域自治センターをメイン会場とし、上田市内3カ所とオンラインで地域まめったいサミットを開催しました。約250名の参加があり、上田市豊殿地区の魅力や取り組み、農業や労働と地域づくりの関係等について学びを深めました。今年はコロナ禍のため、地元実行委員会と見送る議論もありました。しかし、「コロナで中止は簡単。なるべくできるように」という実行委員会の思いにより、色々なかたちを模索し、会場分散型でリスクを軽減しつつ、豊殿地区の暮らしや魅力を伝えるために動画を作ることとなりました。本来であれば、一堂に会し、暮らしの知恵や魅力を共有するのが地域まめったいサミット。今年はオンラインや動画を駆使した新しいかたちでの開催となりました。今回は、来年の本番に向けて開催地の豊殿地区について紹介します。



上田市内3会場をオンラインでつなげました。参加者からは「地域の良さを再発見した」「これからは地域の活動に積極的に参加したい」などの感想をいただきました。

「安心」して暮らせる地域とは 住民主体の地域づくり

豊殿地区には原則1年任期の自治会活動がありました。しかし、地域活動の振興や生活課題の解決は1年任期では難しく、継続して議論できる場が必要でした。そこで設立されたのが豊殿地区振興会。1年任期の自治会役員と継続的な役員で構成されるため、議論に継続性が生まれ、より効果的な活動を可能にしました。そして、その中でも大きなポイントとなるのが、医療・福祉施設の誘致活動です。当時の豊殿地区には、医療・福祉施設がないため手遅れになるケースもありました。自分達の安心は自分達でつくる。そんな住民の熱い思いにより、5年にわたる住民活動の成果として、ローマンうえだと豊殿診療所が開所されました。



豊殿地区の魅力や歴史が詰まった動画を上映。櫻井監督に編集、美馬さんに作曲/演奏を依頼して制作しました。

キーワードは「種まき人」、「学びは実践しなければ意味がない」

施設誘致に成功した豊殿地区は、地域の安心を考えられる“人”づくりのため、「安心」の地域づくりセミナーを住民主体で開講しました。このセミナーは保健・医療・福祉を学ぶことで自分達の「安心」を考えるプログラムとなっています。そして、セミナーで学んだ住民は同窓会をつくり、ローマンうえだ等にボランティア活動で施設に関わったり、「ふれあいサロンhinata boccaとよさと」の活動に参加したりと、セミナーで学んだことを実践しています。施設に関わることで認知症への理解も深まり、「認知症になっても大丈夫」「ここで住み続けられる」という意識が生まれ、セミナー卒業生が種まき人となり、人づくりと地域づくりがうまく循環しています。また、さまざまな人が関わり集まるhinata boccaは、地域や生活課題について話し合う場・協議体としても機能している面もあります。



講師の哲学者 内山 節さん。豊かな労働や農業と地域づくりについて、学びが深まる講演をしていただきました。

地域まめったいサミットとは

過疎・中山間地における住民同士の支え合いや生きがいを持って元気に暮らせる地域づくり、地域を継承していくための取り組みなどのまめったい暮らし、まめったい取り組みを紹介する企画。第1回が中条村で開催され、今年で11回目。来年の豊殿地区での開催を本番とし、今年はプレ（第10.5回）開催と位置付けています。



ヒトと里山を焚火がつなぐ ~NPO法人さとやまネット信州~

長野市のとある山あい集う老若男女。それぞれに木を集め、次々と火が灯ります。人生について語り合う焚火。ただポーっと炎の揺らぎに身をゆだねる焚火。参加者は時間に追われる日常を離れ、焚火という非日常を体験しながら日々の疲れを癒しているように見えます。炎を見ていると自然に話が弾む。素をさらけ出しながらヒトとヒトがつながる。これは、「NPO法人さとやまネット信州」がほぼ毎週土曜日に開催している焚火会。代表の岡村二郎さんに、焚火会を開催する意味とさとやまネット信州が目指すものを伺います。

Q. どうして焚き火会なのですか？

それは「炎の力」にあります。

仕事や日々の生活に疲れたら火を見るのがいいと言われてます。その理由は「f分の1の揺らぎ」にあります。ゆらゆらと揺れる炎の波形にf分の1の揺らぎが含まれているため、ぼんやりと炎を見つめているだけで、不思議と安らぐ。炎には癒しの力があるのです。

引きこもってしまった友人が「ひとりで焚き火がしたい」という一言にどうにかしようとしたメンバーがいます。そのメンバー本人も精神疾患を患い、引きこもってしまった時期がありました。

その時期に薪風呂の火をみて癒された経験や、仲間にライブ出演の機会を組んでもらい外に出るキッカケを作ってもらったことが社会復帰に繋がりました。なので「炎の癒しの力・趣味の大切さ」を伝えています。

焚火を囲むと自然に話も弾む。それが癒しにもなり人がつながるきっかけにもなるんです。

Q. さとやまネット信州とは、どんな事をしているところですか？

- 介護施設での公演を通して趣味・生きがいを得るキッカケを提供。
- 農業を通して「自然に触れる・日光を浴びる・土いじり・身体を動かす」を体験しリフレッシュしてもらう場を提供。
- 断捨離をして心もキレイにし、新たなるスタートを切ってもらう。
- 焚火をして、ゆらゆらと揺れる炎の波形を感じ日々の生活の疲れを癒していただく。

交流が広がったり、仲間との出会いがあったり、それがきっと趣味・生きがいになりメリハリのある日々になるのではないかと、私達は取り組んでいます。

仲間が気づいた何気ない一言から始まった取り組みが、生きずらさを抱える多くの人の心を癒す焚火会。

人間の営みに欠かせない「炎」には、地域と人を繋ぐたいせつなものが隠されているように感じました。



メンバーそれぞれの特技や趣味を生かした活動を展開。

「たすけあい」の精神を持って、疲れきってしまった方に、癒しの場・居場所・生き甲斐・自信をご案内させていただきます。

NPO法人さとやまネット信州

【事務局】〒381-0103 長野市若穂川田1825

さとやまネット信州HP
<https://satoyama.nponagano.com/>

さとやまネット信州
Facebook



社会福祉 HERO'S

ウェブサイト「ひとりひとりが社会福祉HERO'S」から引用しています。
http://www.shafuku-heros.com/

福祉の現場で活躍する
ヒーローたちをご紹介します。



社会福祉法人からし種の会 緑の牧場学園(佐久市)
左から、萩原教太さん、矢島陸帆さん、山本隆寛さん、
みどりっち、白田梨紗さん、宮下真梨子さん



webでも
ご覧になれます



利用者さんと一緒に野菜の収穫をしています。



衛生管理に気を付けてパンを作っています。



色々な作品を作っています。
カラフルな作品はとても人気です!



ケアコンに応募する動画を撮影中!

Q ケアコンに参加したきっかけを教えてください。

A 上司にすすめられ、ケアコンを知りました。私が14年前に入職したときと比べて、利用者さんの高齢化が進み、それに伴い、身体機能の低下もみられます。今後はより身体的な介護の支援が必要になると考えられるので、生活支援員全員で取り組み、介護技術の振り返りや技術向上のために参加しました。

長 野県介護技術コンテスト(以下、ケアコン)は、介護の仕事を目指す学生や介護の職場で働いている職員が介護技術を競い、介護のすばらしさや魅力を発信するため、今年度初めて開催されました。

ケアコン、ふっころフェスティバルの詳細についてはこちら▶



Q コンテストに参加してどうでしたか?

A 課題にそれぞれのチームで取り組み、支援やレクリエーションの工夫をしていたのでいい機会になりました。安全な介護を振り返るきっかけになりました。

Q 普段のお仕事の内容をお聞かせください。

A 施設に入所している利用者さんの生活の支援をしています。日常生活では、食事介助や入浴介助などの身の回りの生活や、日中活動の支援をしています。日中活動では畑で野菜を作ったり、手芸作品を作ったり、缶つぶしをしたり、班に分かれて様々な活動をしています。私はパン作りの作業班に所属し、生活支援員のリーダーとして勤務しています。

Q 生活支援員の変化はありましたか?

A 利用者さんに対する声かけや介助の際に今までより介護の知識や安全をさらに意識して支援することができています。今後も、利用者さんの安全を守り、寄り添うことを意識して利用者の皆さんを支えていきたいです。

●ご感想、お問合せ、
掲載希望等は下記へ
お寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県
社会福祉協議会



福祉・
介護べり帖



長野県福祉研修
実施団体
きやりあねっと



信州福祉・
介護のひろば



ざわめくアート

『おかあちゃん』 和紙、墨

作者:中沢 久美子(なかざわくみこ) 47歳
長野市在住



「おかあちゃん」という言葉の響きは、大方の人にとってはいくつになっても心地いいものだろう。墨遊びのワークで中沢さんと向き合っているいろいろおしゃべりしていると、同居しているお母さんは、おそらく障がいのある娘さんを育てながら、苦労されてきたし、時には厳しくしただろうが、それでも中沢さんにとってはとても大事な存在であることがわかる。

中沢さんは自分が思ったようには文字が書けない。「おかあちゃん」と書かれたボードを見ながら、彼女の手首と肘を決してリードをしないように軽く支えてあげると、しっかりと筆を運ぶ。いいなあ『おかあちゃん』という言葉の響き。

(ながのアートミーティング 取材)